

収入印紙400円（平成16年2月発見）

1. 全体の外観

1) 表面（表面）

紙厚0.082^{ミリ}

真正券の主な偽造対策は次のようである。

① すかし

波状模様だが単品ではなくシートの状態であるとより視認しやすい。

② 微細画線

花卉の中心部、葉の葉脈を表した部分

③ 蛍光インク

上下に14本の波状横罫線と同様に中央部分の横罫線と「日本」、「NIPPON」の連続文字に紫外線により黄色く蛍光発光する。

④ 混抄繊維

赤と青の着色繊維が混抄されている。

偽造券では偽造対策の再現はほとんど省略されているものの、出来映えとしては極めて秀逸である。

① すかし

入っていないが単品では真正券においても認しにくい

② 微細画線

微細印刷ではないが存在感を得ている

③ 蛍光インク

真正券とほぼ同様に再現されている。

④ 混抄繊維

漉き込みはなく、印刷で再現しようとしている。

（表面）

紙厚0.065^{ミリ}

真正券よりやや薄い

真正券○



偽造券×



2) 裏面 (裏面)

収入印紙の裏面はのり面のため白紙状であり、赤と青の混抄繊維の視認が容易である。またのりが乾燥状態でコーティングされているため光沢がある。

真正券の混抄繊維の太さは表面に近いものから用紙の中に漉き込まれたものまでであるため一様ではない。

偽造券の裏面にも着色繊維の混抄があるように見られるが、実は印刷により再現されている。しかしながら、当該偽造券では印刷でごまかしてはいるものの繊維のもつ風合い、質感といったものまで再現された秀逸な出来映えとである。

この部分は目視による視認や虫めがねでは見破ることはむずかしい。

やや、光沢はにぶいものの、裏面はのり面仕上げとなっている。

偽造券の混抄繊維の太さは一様の感があり、むしろ真正券より鮮やかである。

真正券○



偽造券×



2. 微細印刷の出来映え－1

真正券○

偽造券×



表面左上に見られる葉のデザインについて、真正券では右傾斜の太い実線と左傾斜の細い微細画線が交差している。

一方、偽造券では同じ太さの実線で印刷されており、微細線は見られない。

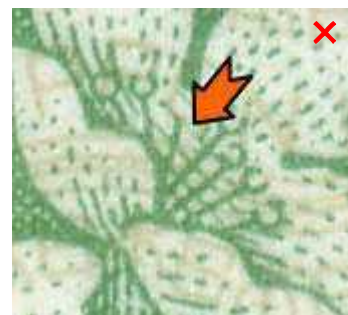


3. 微細印刷の出来映え－2



花卉のデザインにおいても、真正券では右傾斜の太い実線と左傾斜の細い微細画線が交差しているが、偽造券では微細線は見られない。

一方、偽造券では同じ太さの実線で印刷されており、微細線は見られない。



4. 波状横罫線の間隔



真正券では14本の波状横罫線について画線の太さとその間隔が均一である。

一方、偽造券では画線の幅及び画線の間隔が不均一でばらついている。また真正券よりやや濃い色合いとなっている。



5. 印刷デザインの形の差異

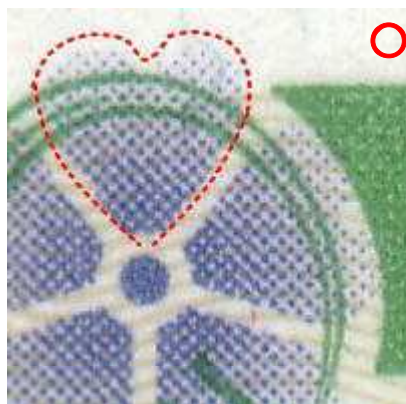
真正券○

偽造券×



イメージ的には表面左上にある朝顔の花弁のように見えるデザインについて、真正券では1つの花弁がハートのかたちをしている。そのため円形の茎のイメージの画線の外にはみ出している。

一方、偽造券ではうろこのかたちに見える。いんくの色についても、やや偽造券は紫がかっている。

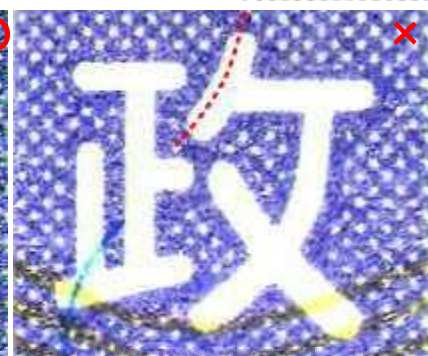


6. 文字デザインの差異－1 (そりかたが逆)



収入印紙の発行元を示す縦書き文字列「日本政府」中の

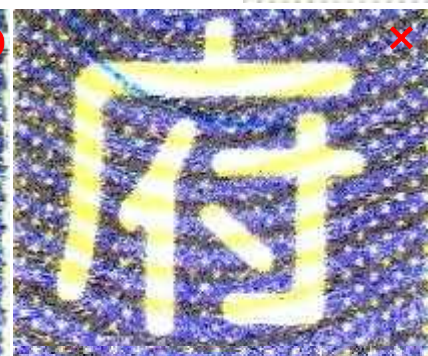
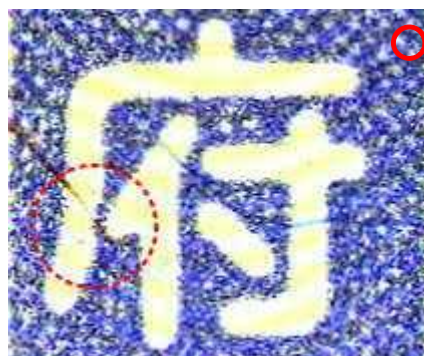
「政」字については第2画縦画線と第4画縦画線の位置間隔が真正券では狭く、偽造券では広い。さらに第6画斜め画線は真正券では直線的な表記であるが、偽造券では「ノ」字状に右に膨らみ湾曲している。



7. 文字デザインの差異－2 (にんべんのくっつき)



文字列「日本政府」中の「府」字については真正券の方が画線幅が太い。また、デザインとして真正券では第4画（にんべん）左はらの終筆部が第3画（まだれ）の縦画線に接している。しかしながら、偽造券では空きがあり接していない。真偽判定の有力な着眼点と言える。



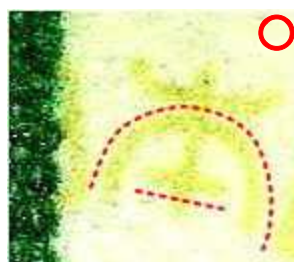
8. 文字デザインの差異－3 (丸か、への字か)

真正券○
偽造券×



波状横文字列として連鎖する「日本」中の「本」字について、真正券では第3画及び第4画のデザインが真円状であるのに対し、偽造券では「へ」字状となっている。

さらに第5画の横画線は偽造券のほうがかなり短い表記であり、画線の色が濃く幅もせまい。

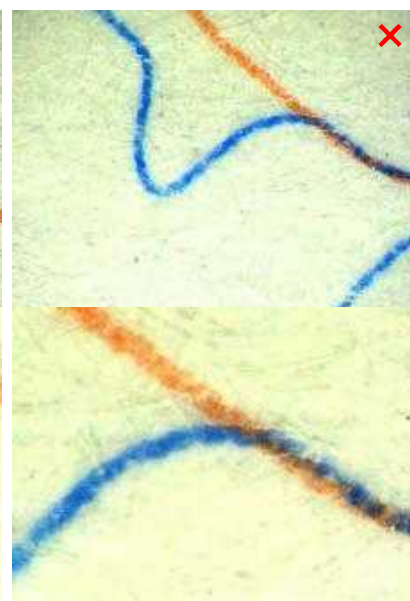
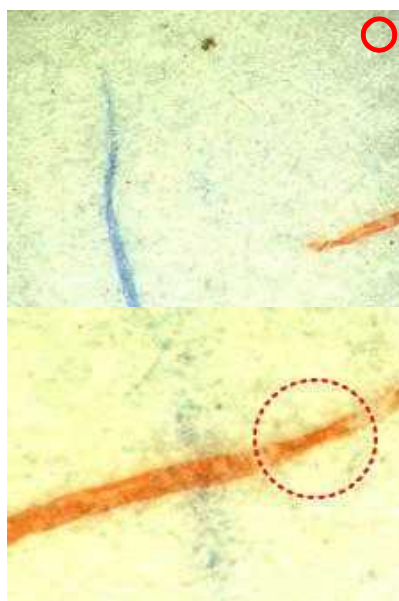


9. 混抄繊維は印刷で再現 (繊維は平たくねじれている)



真正券の混抄繊維は生地の中に色糸が漉き込まれており、繊維という物体がそこに存在するのに対し、偽造券ではあたかも混抄したように印刷でごまかしているのである。しかしながら、当該偽造券の印刷による混抄繊維の再現は非常に秀逸な出来映えで、単純に「あるか、ないか」だけを見るような鑑定では見破ることはむずかしい。10倍以上のルーペまたはビデオマイクロスコープなどの顕微鏡にて視認が可能である。

超拡大（ビデオマイクロスコープMS40-C型）でみると、真正券の繊維の形状はやや平たく、ねじれている。偽造券では物体はない。



10. 微細印刷の出来映え

収入印紙400円のデザインは桜の枝花のようなデザインとなっている。緑色の網点印刷による地紋模様は偽造券においては斜めの罫線状の印刷となっている。真正券を原版として使い、露光オーバーなどの印刷工程でこのような差異が生じたものと思われる。



11. すかしの有無

真正券○、偽造券×

透過光写真を見ると真正券には波線状の白すかしが施されている。偽造券ではすかしはまったく再現されていない。

別件となるが、切手や収入印紙特有の連続穿孔（ミシン目）について、従来の偽造券ではこの部分の出来映えが悪く、ジグザグ状などのため見破るポイントとなっていたのであるが、当該偽造券はこのような部分的な部分までほぼ完璧に再現されている。精緻な技術であり、脅威の偽造券と言えるのではないだろうか。



12. インクと用紙の蛍光反応

紫外線による波状横罫線の蛍光反応は偽造券もほぼ完璧に再現されている。

しかしながら、偽造券では用紙が青白く蛍光発光している。偽造券の紙質が異なっているためであり、その意味でも偽造券であることが判明する次第である。



13. 印刷インクの赤外線反応

赤外線による特殊撮影で得られた画像では真正券の印刷は消えたように見える。一方偽造券では多少薄くなるものの消えることはない。使用されているインクが赤外線を反射、吸収する反応が異なっているため生ずる差異であり、両者は同色ながらインクの成分が異なっているのである。

一般に顔料インクは赤外線を吸収するため画像が現れ、染料インクでは透過（反射といってもよい）するため消える、といった現象が生ずる。ただし真正券のインク成分は公表されていない。

